

# 小平市立学園東小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的

この調査は子どもたちへの学習状況を把握・分析し、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることを目的としています。

全国の公立小学校6年生及び公立中学校3年生を対象に実施しています。今年度は、4月21日（火）に実施いたしました。

## 2 調査内容

調査は大きく分けて、学習状況を見る調査と生活習慣や学習環境などを見るアンケート調査があります。

### (1) 教科に関する調査

#### ●主として「知識」の力を見る国語A、算数A

身に付けておかなければ、後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技術などが中心の問題です。

(例) 漢字の読み書き 文法 短い文章の読み取り 計算問題 図形の書き方 立体の体積

#### ●主として「活用」の力を見る国語B、算数B

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などに関わる内容が中心の問題です。

(例) 長文の読み取り 作文 計算方法を式や言葉で説明 順序立てて問題の解き方を考える

#### ●主として「知識」と「活用」の力を併せて見る理科

(例) メダカの雌雄を見分ける方法 実験結果を基に自分の考えを改善

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲や学習環境、生活の諸側面に関することを児童がアンケートに答える形の調査です。

(例) 朝食や睡眠に関する質問 テレビの視聴時間やインターネットをする時間  
家族や地域で過ごす時間について 学校の学習や生活について など

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

国語Aでは、正答率が全国平均をやや下回っている。特に書くことが全国との差が大きい。しかし、話すこと・聞くことでは、全国を若干上回っている。国語Bでは、同様に書くこと、読むことが全国より低い。特に国語Bでは後半の問題に無解答の児童の割合が増えていた。

#### 課題

昨年度も同様の傾向があったが、説明文では、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えたり、文章と図とを関連付けて、自分の考えを書くことなどが苦手である傾向が見えた。正答数においてはAでは中間層が多くBでは2～3問しか答えられない児童と7～8問答えられる2層に分かれた。

#### 学校で取り組む具体的な改善策

国語の時間の中で内容を正確に読み取ることと同時に、常に自分はどう思うかという問いを発し、自分の考えをもち表現するという活動を中心に取り組む。さらに一定時間の中で一定の文章を読み取る活動も行っていく。また、中間層の割合をあと少し引き上げるために基礎・基本の習得も怠らず、木曜日の補習の時間を有効に活用していくとともに、朝の読書の時間の質を高める活動をしていく。

## 【算数】

### 状況の分析

算数 A・B とともにわずかであるが全国平均をやや下回っている。その中でも A においては、量と測定の領域は平均より大きく上回っている。B では正答数が 1～2 問しかないという児童の割合が高い。また、解答の理由を記述する問題の無解答率が高いが正答率がかなり低いというわけではない。

### 課題

昨年同様示された情報を整理し、筋道を立てて考え、求め方を記述する傾向の問題が弱いことが分かった。さらに記述などの面倒な問題を避ける傾向があり、正答率が 1・2 問という児童の割合が高い。どんな問題にも取り組む意欲をもたせることと、全体の底上げが必要であることが考えられる。

### 学校で取り組む具体的な改善策

昨年同様、教科時数を確保し習熟度別 3 展開での指導体制をしっかりと整え、どのコースも導入からそのクラスに合った授業展開をする。また、どのクラスも問題を解く過程を重視し自分の考えを発表し合う場を作る。さらに、算数ボランティアや学生ボランティアとともに東京ベーシック・ドリルに取り組み、基礎・基本の徹底した習熟を図り、児童の学力の底上げをする。

## 【理科】

### 状況の分析

主として知識に関する問題は全国平均と変わらず、活用に関する問題がやや平均を下回る。評価の観点では、科学的な思考・判断と事象についての知識・理解がやや下回るものの観察・実験の技能は上回っている。単元による正答率の差が大きい。

### 課題

天体・星座・方位などの単元の正答率が低い。実験ではできない単元の知識の習得が課題である。また、顕微鏡についての知識の正答率も低い。知識の習得が十分でなくとも、実際には操作できるからであろうと思われる。また、科学的な思考・表現等も平均をやや下回る。

### 学校で取り組む具体的な改善策

科学的な思考・表現の力を付けるために現象からの考察・分析の時間を授業時間内に設定し、十分な話し合いの時間を確保する。また、実験が主になる単元においても知識として身に付けるべき言葉等は教員が意識して授業の中に組み入れる。また、低学年のうちから自然に触れる体験を多く取り入れ、理科学的な物の見方考え方を少しずつ身に付けさせていく。

## 【生活や学習環境に関する質問紙調査】

### 状況の分析

「将来人の役に立つ人になりたいですか」や「地域や社会を良くするために何をすべきかを考えることがありますか」「将来の夢や希望をもっていますか」「自分には良いところがありますか」等の設問は、全国より高い。総合的な学習での様々な取り組みが生かされていると思われる。

### 課題

「人の気持ちが分かる人間になりたいと思いますか」や「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」の設問や「今住んでいる地域の行事に参加していますか」等の回答が全国よりやや低い傾向がある。読書についても昨年同様やや低い。

### 学校等で取り組む具体的な改善策

いじめに関する設問は全体の児童が行っていけないと思えるように、道徳やその他の学習活動において、繰り返し指導していく必要がある。また、人の気持ちに関する設問においても、思いやりのある行動がとれる児童がさらに増えるようスクールカウンセラー等とも連携し指導していく。また、読書の時間も質を高める工夫をし、読書好きの児童を育てていく。さらに宿題はするが復習はしないという結果が明らかになったため、学年×10分を家庭とともに徹底し取り組んでいく。